



◆生産者庭先集荷の対応について

各流通センターでは、部会生産者の皆さんの全量出荷による有利販売に努めてまいります。流通センターから遠い方等事情により、センターに持ち込みできない方は、予め直接流通センターに申込み下さい。

◆当面する重点作業

1. 高温干ばつが継続しており、気象台の予報でも同様のため、日焼け発生、落果が見られている。かん水の徹底をし、玉肥大の手助けと生理障害の軽減に努める。
2. 中生種の着色管理と適期収穫に努める。日焼け果の発生に注意して行う。
3. ふじの着色管理を適期に行う。特にハダニ病害で葉に被害があった樹は葉摘みを遅らせる。
4. 例年発生するすす病だけでなく、黒星病防除も重要になる時期です。
5. 炭そ病(被害果の病斑部がややへこむ)対策を実施する。見つけ次第埋めるか園外に持ち出す。
6. シンクイムシの被害果を適正に処理する。また、リンゴワタムシ(メンチュウ)に注意する。

◆炭そ病・輪紋病対策について

梅雨時期の降雨の影響で、炭そ病・輪紋病の感染が心配される。現在、シナノドルチェに炭そ病の発生が目立っており、今後も紅玉・シナノゴールド中心に、発生が心配される。今後は、耕種的防除が重要になるため、自園の状況をこまめに確認する。

1. 発見次第、被害果を取り除く。
2. 特に上枝に被害果が残っていると下枝まで発病しやすい(雨で二次感染するので、雨の前に除去)
3. 被害果の病斑部に触った手で他の果実に触らない。

◆第14回薬剤散布について

1. 散布時期：10月1日(火)～14日(月) 散布日 月 日
2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
ストライド顆粒水和剤	66g	すす斑病・すす点病・斑点落葉病・黒星病	前日

3. 散布量：10a当り⇒500ℓ以上
4. 散布上の留意事項
 - ①ストライド顆粒水和剤は高温時に使用すると薬害が発生する場合がありますので、涼しい日を選んで(当日だけでなく翌日も)使用する。
 - ②リンゴワタムシ(メンチュウ)の発生園では、ダントツ水溶剤3,000倍(水1000ℓ当り33g・収穫前日まで・年3回以内)を加用散布してもよい。
かかりやすいように新梢の管理も行って風通しを良くしておき、発生箇所要充分かかるように(吹き飛ばすように主幹部や根もとへも)行う。
 - ③果面の汚れ軽減のため、通常の展着剤に代えて特殊展着剤ササラ3,000倍(水1000ℓ当り33ml)を使用しても良い。
 - ④収穫中・収穫間近な品種は農薬の汚れが付くので散布しない。
 - ⑤有袋ふじの場合は除袋後に散布を行う。

◆スモモヒメシンクイ対策について

スモモヒメシンクイの被害果が散見される。りんごでの果実被害が増えているので処理を徹底する。被害果を放置しておくと、他のりんごにも被害が及ぶので適正な対策を実施する。

◆落果防止剤のストッポール液剤散布について

1. 調合量と散布日：(収穫25日前頃) 展着剤は加用しない。

対象品種	水 100ℓ 当り調合量	散布時期目安	実際散布日
シナノゴールド	6.6ml	9月22日(日)～9月28日(土)	月 日
王林	6.6ml	9月25日(水)～10月1日(火)	月 日

3. 散布量：10a当り⇒300ℓ

4. 散布上の留意事項

- ①シナノゴールドはわい化樹のみへ散布する。普通樹でも、収穫前落果が発生することがあるので散布してもよい。
- ②単用で1回散布する。(他の剤と混用しない)
- ③散布量が多いとボケるので注意する。
- ④土壌が乾燥していると効果が低下するので、乾燥している場合はかん水を実施後、散布する。
- ⑤朝か夕方(風がないこと)散布する。

◆秋映・シナノスイートの収穫及び出荷目揃い会並びにふじ着色管理講習会開催について

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
9月25日	水	午前 9:30	西部流通センター(車は東側駐車場へ)	徳武・寺澤
		午前 11:00	塩崎共選所	徳武・寺澤
		午後 2:00	中真島 中央道	根津
9月26日	木	午前 9:30	有旅集荷所	徳武・寺澤
		午前 11:00	川中島共選所	松橋
		午後 2:00	瀬原田 福島宏之様園	徳武・外谷
			若穂流通センター	松沢
9月27日	金	午前 9:30	中村安利様園(松代東条)	伊藤

◆有袋ふじ除袋について [一挙除袋専用袋の除袋]

1. 除袋時期：9月20日～10月1日頃

- ①果実地色の抜け具合を見ながら気象条件(天気・気温)樹勢や環境条件に合わせる。
樹勢が強い場合で除袋が早いと、地色が戻ってしまうので注意。
- ②夜温がしっかりと下がり除袋後晴天が数日続く時がよい。
- ③下枝はさらに遅くしてもよい。

2. 留意事項

- ①除袋前及び、除袋時の葉摘みはしない。
- ②除袋時刻は果実温が高くなった午前11時から午後4時ころに行う。
特に、雨上がりの果実が濡れているとき、朝の気温が下がった日の午前中は、日焼け発生の危険性が高くなる。(毎年これにより日焼けが多い) この場合午後除袋する。
- ③黒の内袋を残して、2回に除袋すると日焼けが発生するので、必ず外袋と内袋を一緒に除袋する。

◆ふじ着色管理について

1. 除袋前・葉摘み前に支柱立て、枝つりを徹底する。
2. 日陰を作っている徒長枝の葉を、先端のみ残してコク。むやみに切らない。
3. 葉摘み・玉回しを、樹勢・果実の肥大・熟度に合わせ徹底実施する。
4. 褐斑病やハダニの被害にあって葉が痛んでいる樹は葉摘みを遅らせる。

《有袋ふじ》

1. 完全除袋後、5～7日目頃から軽い葉摘みを行う。
※早い時期での強い葉摘みは着色を悪くし、スカーフスキンの発生など悪影響を与える。
2. 果面の60%程度着色したらやや強めの葉摘みを行い、併せて玉回しを行う。
3. 反射マルチを積極的に利用し、着色向上に努める。但し、高温時は使用しない。

《サンふじ》

1. 9月末頃は徒長枝を中心に葉つみを開始する。徒長枝は先端の葉だけを残してズッコク。
2. 葉つみは2～3回に分け、着色の進行に合わせて徐々に強めに実施する。
果そう葉の場合、最初は1～2枚程度の葉摘みと摘果時より残っている果柄を落とす。
なお、玉回しは1回目の葉摘み時に行わず、2回目の葉摘み時に行う。
作業が間に合うならば9月ではなく10月に入ってから葉摘みを行うと効果が高い。
3. 10月中旬以降になると果実の熟度も増し、気温も下がってくる。強めの葉摘みもよい。
4. 「蜜入りサンふじ」で出荷する場合は、葉摘みを10月中旬からとする。
5. 樹勢が強く玉伸びがよい樹や若木は早い時期での強めの葉摘みをつつしむ(順番を最後にする)

◆陽光の着色管理について

陽光は比較的、着色の悪い品種である。特に下枝部では悪いので着色管理の徹底を図る。葉摘みは9月下旬に果実についている葉を中心に実施し、シルバーマルチ等を利用する。
陽光面が着色したら、2回目の葉摘み(下枝部では強く)と玉回しを行う。

◆シナノゴールドの出荷用ノバシートについて

シナノゴールドを出荷する際にクッション材としてノバシートを貸し出します。なお、品種問わず利用しているセンターは、通常通り使用ください。

1. 配布時期：シナノゴールド収穫講習会頃より配布となります。
2. 配布場所：各流通センター・共選所
3. 留意事項：
 - ①まとめたお渡しはできません。都度出荷に必要な分のみとします。
※回転させて使用します。出荷者皆さんで使用できるよう配慮下さい。
 - ②使用は、1段1枚。3段入れなら3枚です。果実下面のみの使用で、横には使用しないで下さい。
 - ③シートを入れる事により、コンテナより果実が出てしまう場合は、2段詰めとして下さい。
 - ④シナノゴールドのみの使用です。
 - ⑤出荷終了後は、早急に返却をお願い致します。例年、出荷終了し、かなり経過してからの返却がありますが、適正管理のため、お忘れのないようお願い致します。

◆うまいくだものコンクール「シナノスイート」開催について

下記内容で開催されます。希望者は申し出てください

1. 主催 : 長野県園芸作物生産振興協議会、長野県園芸特産振興展推進協議会
2. 開催日 : 令和6年10月17日(木)
3. 開催場所 : 松本合同庁舎講堂
4. 出品資材 : 専用5kgダンボール、モールドパック、ノバエース
5. 申込 : 10月7日(月)までに、各流通センター駐在果樹技術員まで
6. 出品財 : 搬入は、JAでまとめて対応もしくは、個人による宅配による送付(個人負担)となります。申込者にあらかじめ、連絡いたします。